『十代の望まない妊娠防止対策に関する研究』

分担研究者　北村邦夫　（社）日本家族計画協会クリニック

研究目的

１９９３年の優生保護統計によると、２０歳未満の中絶件数は２９，１９３件となり、２年連続で減少している。とはいえ、十代の望まない妊娠、その結果としての出産や中絶は彼らの人生に大きな身体的、精神的、社会的な禍根を残すことになる。本研究では、性行動が加速化しているといわれるわが国の十代の現状を探るとともに、世界各国における十代妊娠防止への取り組み等を学ぶことにより、「望まない妊娠の防止」のための行政施策への提言を図ることを目的に行われるものである。

研究の概要と次年度の課題

初年度、本研究班では以下の３つのテーマについて取り組んできた。

①世界各国の十代妊娠、中絶、出産、避妊法等の現状と、望まない妊娠防止対策についての調査

国際家族計画連盟（ＩＰＰＦ）の協力を得て、世界１６７カ国・地域の家族計画協会にＡ４版英文８枚にもおよぶ調査票を送付した。１９９５年3月３１日までに５９件の回答があったが、国の事情の違いが明白となっている。例えば、アジア・オセアニア地域では、十代に避妊具を提供してはいけないという法律はないものの、きわめて手に入れにくい状況であること。各国とも若者の避妊法はコンドームが中心、その次が経口避妊薬（ピル）。十代妊娠の防止に対して、各国とも相談だけではなく、多彩でユニークな事業を行っている。例えば、ビデオを使っての教育、男性同性愛者のための性教育、エンドレステープで聞ける電話情報サービス、バレンタインデーに街頭でチョコレートではなくコンドームを配布することなどである。次年度は集計・分析が進み、更に興味深い結果を出せるものと思われる。わが国も行政主導ではなく、民間との連携による斬新な事業の展開が望まれる。

②わが国の十代が妊娠に至るまでの経緯、避妊法、妊娠の結末とその予後についての調査。思春期保健、医療に関心を持っている医師に対する十代妊娠への意識調査

日本の現状を知るために、十代妊娠事例の多い診療施設を北海道、青森、宮城、群馬、東京、島根、鹿児島から意図的に選出し、十代妊娠の現状、問題点、妊娠の結末、予後などについて詳細な調査を実施している。調査は次年度まで１年間の予定。本調査では、単に医学的な側面にとどまらず、彼らを取り巻く家庭、学校、社会などが、彼らの性行動や妊娠におよぼす影響について調べている。初年度は、調査票を作成、配布し２０３件回収された。その結果、妊娠例の中での中絶割合は１９歳以下で５０．４％、２１歳で５４．８％と大差がなかったが、中期中絶の割合は１２．８％と９．７％であり、１９歳以下で１．５倍高く、問題点が浮き彫りされた形となった。次年度からは続々と調査票が回収され、集計・分析に入ることになっている。従来からとかく「十代」だけが問題視されているが、今回の調査には、あえて２１歳をも対

象としており、問題は「十代」という年齢にあるのではなく、経済的に自立していない世代、いわば親のすねをかじっている世代の妊娠にあることが明らかとなると思われる。

また思春期保健・医療に関心の高い東京都内の産婦人科医師を対象に「十代の性と避妊」をテーマに調査を実施し、医療従事者としての意識を探った。その結果、回収された１１１件についてみると、「結婚が前提ならば未婚者のセックスも構わない」との考えを示すとともに、避妊法としてはコンドームを推奨。中絶を経験したことのある若者には圧倒的にピルを勧めるなどの意見が大勢を占めた。次年度はこの調査を全国に広げ、十代の妊娠、中絶、出産に直接関わる現場の医師の意見を集約していきたい。

③十代の性の実態、性行動、妊娠、中絶、避妊などに対する意識と行動についての調査

「十代の望まない妊娠の防止」をテーマにしながら、とかく当事者である若者が不在のまま、大人達や研究者の思惑だけで調査が進められていることが少なくない。本研究では、女性が主体的に参加できる確実な避妊法を選択している３組のカップルに出席を促した集団面接調査と、少女雑誌の編集に関わっている研究協力者が９人の女子に直接会っての面接調査を実施し、若者達の率直な意見に耳を傾けた。その結果、セックスに関する情報は巷にあふれているものの、若者には正確な避妊知識が得難いこと、情報源としては友人が多く、教師や親には性教育を期待していないこと。緊密なコミュニケーションがとれているカップルでは避妊などにも積極的に取り組めることなどが明らかになった。次年度も事例を積み上げていきながら、若者達が家庭に、学校に、社会に、何を求めているかを探っていきたい。

結　語

本分担研究の初年度においては、３つの大テーマに対して、まず文献検索や既存データの収集による先行研究を検討しながら調査を開始した。今後は、回収されたデータの集計、分析を急ぐとともに、①世界各国比較研究については、「十代の望まない妊娠防止」に関して先進的に取り組んでいる国に絞っての調査の実施、情報や健康教育資料や教材の収集、②十代の妊娠調査では行動面だけでなく、社会、教育、マスコミなどマクロ面にも注目していきたい。また、妊娠をする側だけでなく、男性の意識などについても目を向けたい。さらに、③当事者である十代への個別の面接調査を積み上げながら問題点をより具体化していきたいと考えている。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

研究目的

1993 年の優生保護統計によると、20 歳未満の中絶件数は 29,193 件となり、2 年連続で減少している。とはいえ、十代の望まない妊娠、その結果としての出産や中絶は彼らの人生に大きな身体的、精神的、社会的な禍根を残すことになる。本研究では、性行動が加速化しているといわれるわが国の十代の現状を探るとともに、世界各国における十代妊娠防止への取り組み等を学ぶことにより、「望まない妊娠の防止」のための行政施策への提言を図ることを目的に行われるものである。